第11分科会

完全在宅就労移行支援による

在宅勤務就労事例

一般社団法人ペガサス
代表理事　木村志義

講師紹介
木村志義（きむらもとよし）

- 生年月日：1966年（丙午）4月2日（世界自閉症啓発デー）
- 生まれ：東京
- 趣味：飲酒、スポーツ観戦（ラグビー、阪神タイガース）

- 1990年　大手タイヤメーカー入社（営業職に従事）
- 2002年　日本初障害者専門の人材紹介会社設立
- 2012年　一般社団法人ペガサス設立
- 2013年　精神障害、発達障害の方に特化した就労移行支援事業開始
- 2022年　在宅就労移行支援開始

完全在宅就労支援について

＊事業所：ペガサス平塚センター、ペガサス逗子センター
（就労移行支援、就労定着支援）

＊完全在宅支援実績

- 2022年7月（開始）～2024年10月
- 在宅支援延べ利用者：27人
- 退所者：3人（体調不良のため）
- 就職者：5名（東京2名、神奈川2名、福岡1名）
- 就職活動中：5名
- 就職活動準備中：14名

障害者手帳種別

＊完全在宅支援延べ利用者：２７人

- 身体障害：6人（下肢障害4人、難病2人）
- 精神障害：21人（発達障害含む）

＊就職者：5人

・身体障害：2人（下肢障害、難病）

・精神障害：3人

地域別

- 神奈川県：10人
- 東京都：8人
- 埼玉県：6人
- 茨城県：1人
- 栃木県：1人
- 山梨県：1人

＊埼玉県、三重県の方が利用手続き中

支援機関の生の声

2022年夏～秋にかけて、一都三県の関係機関、約200か所訪問

（なかぽつ、就労支援センター、ハローワーク専門援助部門、訪問看護ステーション、若者サポートステーション、リハビリテーション病院・・・・）

質問ベスト3

１．完全在宅で求人はあるのですか？就職できるのですか？
→後程ご説明いたします。

２．完全在宅で支援できるのですか？
→ぜひ、体験利用を受けてみてください。

３．月一度の対面面談はどうしているのですか？
→全国に訪問します（一部公共の交通機関が少ない地域の方はご相談させていただきます）

就労事例①　Aさん50代女性の例

【障害の状況】

・身体障害者2級。事故にあい、下肢、上肢、体幹に障害を持つ。

【強み】

・マネジメント力（会社経営の経験あり）

・コミュニケーション能力（カウンセラーの資格取得済み。オンラインカウンセリングの経験あり）

【配慮事項】

・下肢障害による移動、上肢障害によるパソコン入力スピード、体幹機能障害による作業時間（週20時間程度）

就労事例①　50代女性の例

＊2022年7月～2023年8月

・パソコンスキル習得（実務での使用経験が少なかった）

・パソコン操作方法の工夫（作業療法士のサポート）

・座位での作業を継続するための工夫。

・引っ越し。

就労事例①　50代女性の例

＊2023年9月～
・就職活動開始

・障害者の在宅求人はほとんどが事務職

・ハローワーク在宅求人、募集1人に対して時には100人以上の応募

・苦戦（事務の職歴なし、パソコン入力スピードに配慮必要、長時間勤務不可、配慮事項のい方も応募）

・就職活動の方向性に疑問

就労事例①　50代女性の例

＊ある人材派遣会社（従業員数約1000人）との出会い
・法定雇用率達成を目指すも途中で足踏み
・これ以上の障害者雇用のためのポジションが見つからない
・完全在宅での障害者雇用を提案
・全国の障害者スタッフの定期面談担当がいない
・全国のスタッフの定期面談は、もともとリモート

＊2024年3月に、全国の支店の新入社員の、オンライン定期面談担当として入社（11：00－15：00、週5日勤務）

就労事例②　Bさん30代男性の例

【障害】
・精神障害3級（気分変調症、広汎性発達障害）

【強み】
・PCスキル
・論理的思考

【課題・配慮事項】
・体調の安定
・体調に合わせた勤務時間

就労事例②　30代男性の例

- 2023年7月利用開始。
- 就職後は、まずは午後のみの勤務、週20時間を目指したいとのことだったので、当初午前であった訓練時間を、午後に変更。
- 体調が安定しだす。

就労事例②　30代男性の例

- あるオンライン研修で、従業員20数名の不動産会社で、在宅勤務により数名の障害者雇用をしている社長の話を聞く。
- 早速、会社訪問したところ、在宅の障害者雇用は主にCADオペレーターとして勤務、まだ採用ニーズがあるので、経験がなくても、PCが得意な方がいたらつなげてほしいとの依頼あり。
- Bさんを提案、1週間の実習を行い、高評価。
- まだ体調が安定しない日もあるため、まずは2024年3月から、トライアル雇用で勤務開始（13：00-17：00→11：00 - 18：00、週5日勤務）。
- グループLine（在宅勤務11人、社員全体20数名）書き込むことは少ないが、所属感を持てる。

就労事例③　Cさん30代女性の例

【障害】
・身体障害４級（難病）

【強み】
・企業での事務職の経験
・PCスキル
・作業スピード

【課題・配慮事項】
・呼吸器系の難病で、体力がない
・週の勤務時間が2～6時間程度

就労事例③　30代女性の例

・2022年12月利用開始。

・体力が課題であったため、まずは2時間、週2日から訓練開始。

・徐々に、週3日、4日と延ばしていったが、4日はきついことが分かり、週3日に落ち着く。

・通院のある日は、その前後は、体力の温存のため、休み。

就労事例③　30代女性の例

・週2～6時間しか働けないため、障害者雇用の求人がなく、就職活動に苦戦。

・一般の主婦向けの求人サイトや、業務委託、リモートのB型事業所に広げるも、希望に合う案件が見つからない。

・ペガサスで実習したところ、正確性とスピードが際立っていることから、10月1日付で、ペガサスにて採用。

・現在、入力、チェック、調査、メール代行等の業務を担当。

在宅勤務で働くために必要なこと

- 自立・自律
- 理解力
- 体調安定のための自己対処
- 自己管理能力
- 在宅勤務で働くという腹くくり
  （通勤可能であれば、そちらを目指すのもお勧め）

ご清聴ありがとうございました